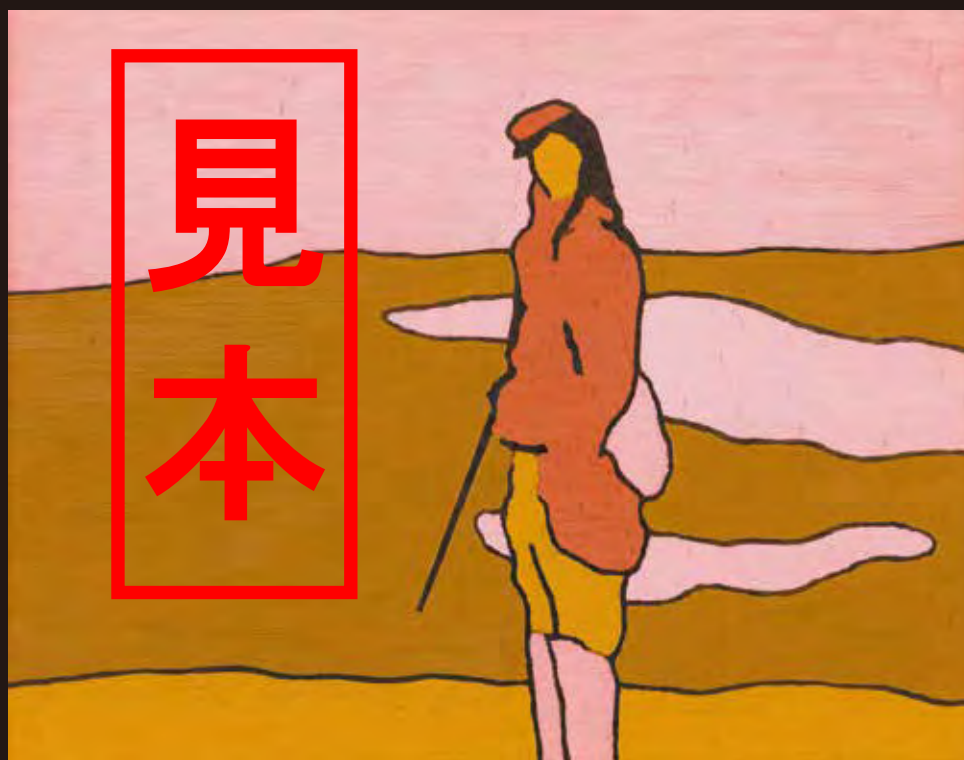


はまなかのぶひさ絵画作品集

— 理智と童心と — the way you were



ーごあいさつー

濱中信久（1942－1980）は、昭和17年、滋賀県愛知郡秦川村（現愛荘町）に生まれ、父が住職を務める天台の名刹、金剛輪寺で育ちました。高校時代より独学で油絵を学び、自然の事物を抽象化する独自の作風を築き上げました。昭和42年（1967）、「画壇の仙人」と称された熊谷守一（1880－1977）から「世の中に顔出しすると好い」と推され、翌々年に東京銀座で初個展を開きます。以来10年間、東京や京都などで個展活動が続け、作品は約400点を数えました。

昭和46年（1971）、難病の嚢胞腎を発病、病状は徐々に悪化し、昭和52年（1977）には右半身不随になり、約1年を病院で過ごすことになりました。以後、4年間ほとんど寝たきりの生活の中、1日1時間の限られた制作時間で絵を描き続けていきます。

本書では、濱中の初期のエチュードのほか、自然や生物、仏などの姿を描いた代表的な作品の数々を紹介します。

ー目次ー

1. はまなかのぶひさ（濱中信久）略年譜	2
2. エチュードの時代	3
3. 五日市時代－東京－	8
4. 御殿場時代－静岡－	12
5. 那須時代－栃木－	14
（1）前期－右手の時代－	
（2）後期－左手の時代－	
6. 掲載作品一覧	40

ー凡例ー

- ◆ 本絵画作品集は令和2年4月18日（土）から5月31日（日）までを会期として愛荘町立歴史文化博物館において開催する濱中信久没後40年令和2年度春季特別展「はまなかのぶひさ絵画展 ―理知と童心と―」の展示作品集である。
- ◆ 展覧会の企画・構成は愛荘町立歴史文化博物館学芸員 三井義勝が行い、同学芸員 西連寺匠・山本剛史が補佐した。また、展覧会及び本絵画作品集の監修は、NPO法人桜和－OWA（理事長 濱中房枝）が行った。
- ◆ 掲載作品の写真は辻村耕司氏（辻村写真事務所）が撮影し、その他については濱中房枝氏から提供を受けた。
- ◆ 展覧会開催にあたり、次の機関及び関係者各位の協力を得た。記して謝意を表します（敬称略・順序不同）。

NPO法人桜和－OWA 那須塩原市教育委員会 金剛輪寺

劇団らくりん座

赤森伸子 臼田みち子 宇山敏夫 小沢祥子 君島幸江 君島仙一

国近敏子 高畑雅子 武井範子 辻三千宣 中野治雄 堀田節子

堀内優美 和田 厚 古賀みちる 濱中房枝 濱中大樹

1. はまなかのぶひさ（濱中信久）略年譜



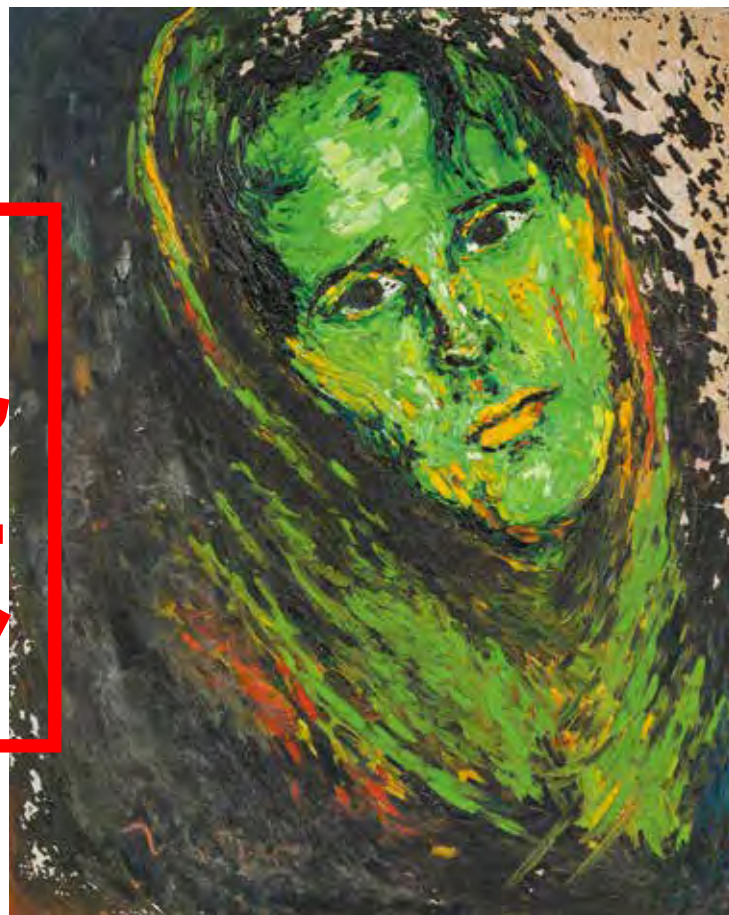
（雪の残る大蛇尾沢でヨギと）

- 昭和17年（1942） 滋賀県愛知郡秦川村大字松尾寺（現 愛荘町松尾寺）、金剛輪寺に生まれる
- 昭和34年（1959） 滋賀県立彦根東高校卒業後、上京して早稲田大学教育学部英米文学科に進学
- 昭和40年（1965） 年来私淑してきた熊谷守一に推され画業に入る
- 昭和43年（1968） 富田房枝と結婚
- 昭和44年（1969） 東京銀座で初個展、以後、東京・京都で年2回の個展を開催
- 昭和46年（1971） 嚢胞腎を発病し、静岡県御殿場市より栃木県黒磯市（現 那須塩原市）に転居
- 昭和52年（1977） 腎性高血圧のため、脳内出血を発症し、この年より左手の制作となる
- 昭和55年（1980） 4月30日逝去（享年38歳）
- 5月に京都「ギャラリー紅」で遺作展が開催される
- 11月に福音館書店より絵本『きつねきいちと いたちきよるきよるの おはなし』
（富田房枝作・濱中信久絵）が刊行される
- 平成7年（1995） 秦荘町立ハーティーセンター（現 愛荘町立ハーティーセンター秦荘）ギャラリーで
没後15年展が開催される
- 平成13年（2001） 『はまなかのぶひさ作品集－那須野から－』（発行：らむぶ舎）が刊行される
- 「はまなかのぶひさ作品展－没後21年遺作展－」が秦荘町歴史文化資料館
（現 愛荘町立歴史文化博物館）で開催される
- 映像ドキュメント「空を翔ける銀狐」が制作される

2. エチュードの時代

見本

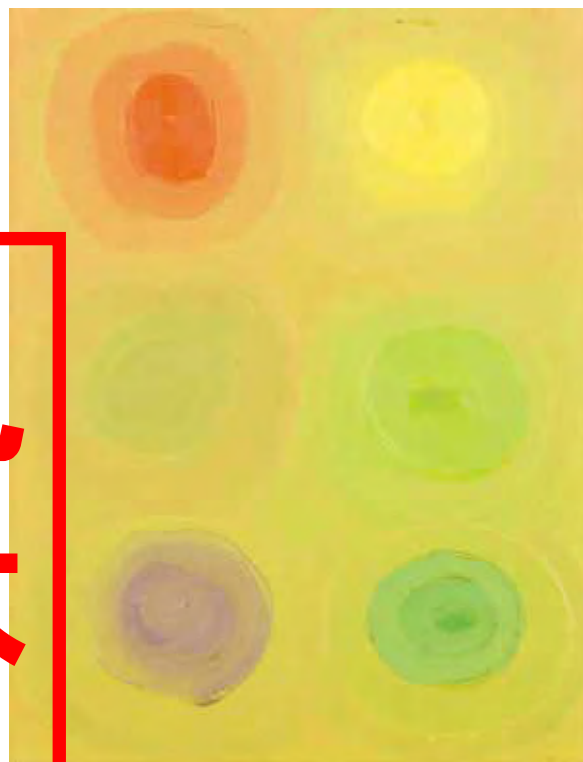
二十歳の頃のエチュード
同級の留学生が授業を欠席したので3日程
気にしていたら病気で亡くなっていた。
その鎮魂のために描かれた作品。



1 《冬の日》 1962年 油彩・カンヴァス



見本



2 《#3》 1966年 油彩・カンヴァス

3 《作品6 5/11》 1966 年油彩・カンヴァス



4 《エチュード 狐》 1967年 油彩・カンヴァス



5 《エチュード》 制作年不詳 油彩・カンヴァス



見本

ー日記よりー

「色の並列」は平面と平面が寄る時、気を付けないと
いけません。これを気にしなかったか印象主義はどん
どん進みました。ピカソは線を入れました。

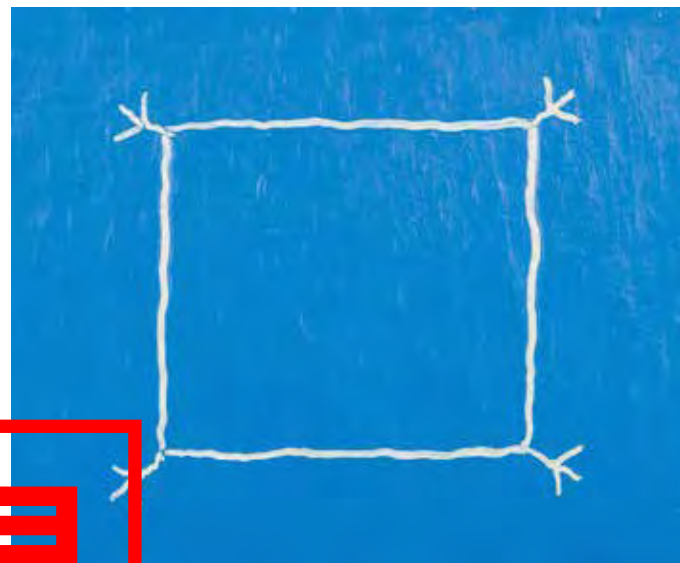
昭和53年(1978)12月11日

6 《房枝の肖像》 1968年 油彩・カンヴァス



7《無題》 1968年 油彩・カンヴァス

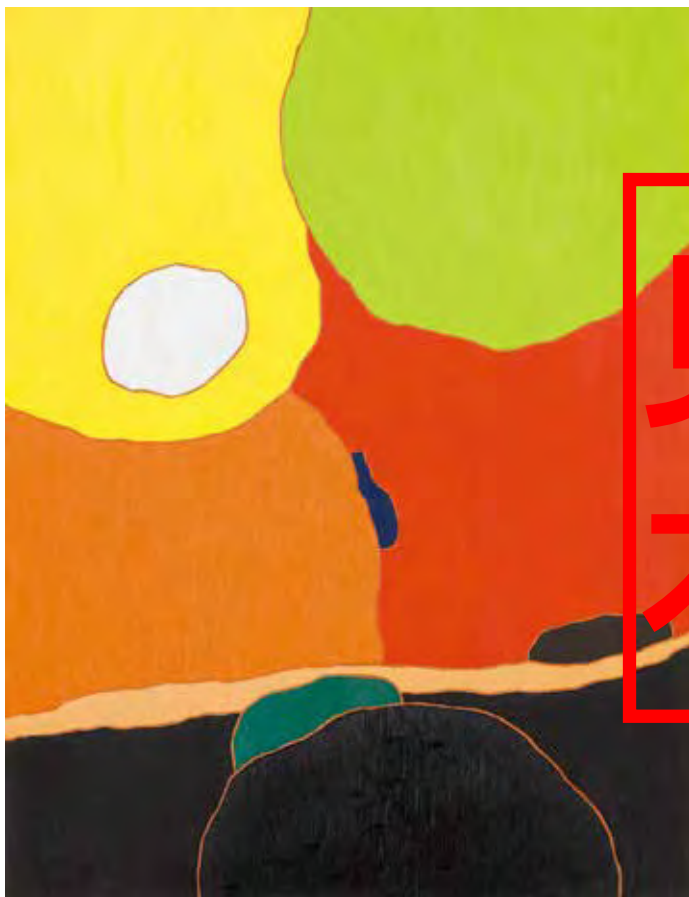
見本



8《無題》 1968年 油彩・カンヴァス

この2枚の絵を見た熊谷守一に推され
これを期に個展活動に入る。

3. 五日市時代 -東京-



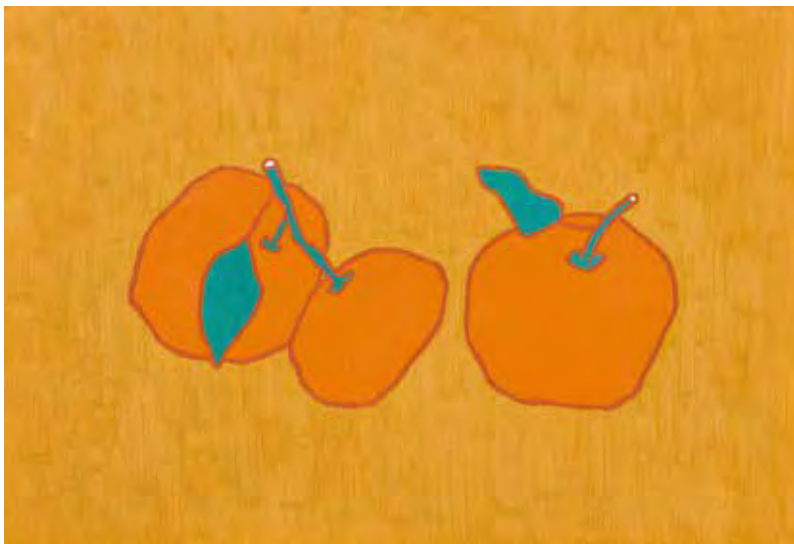
見本

東京都の多摩地域西部にある五日市町に居を定め、画家として本格的に活動を始める。

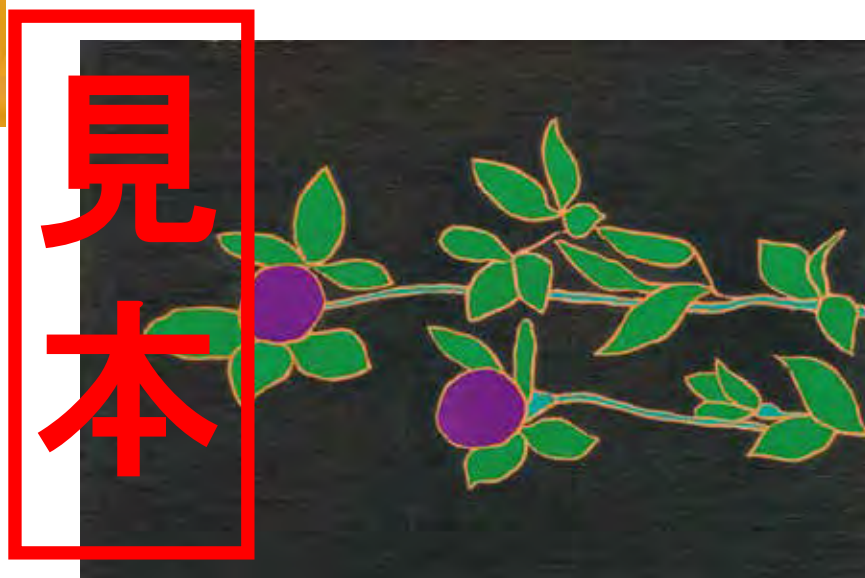
9 《山道》 1969年 油彩・板



10《月》 1970年 油彩·板



11《蜜柑》 1970年 油彩・板



12《あかつめ草》 1969年 油彩・板



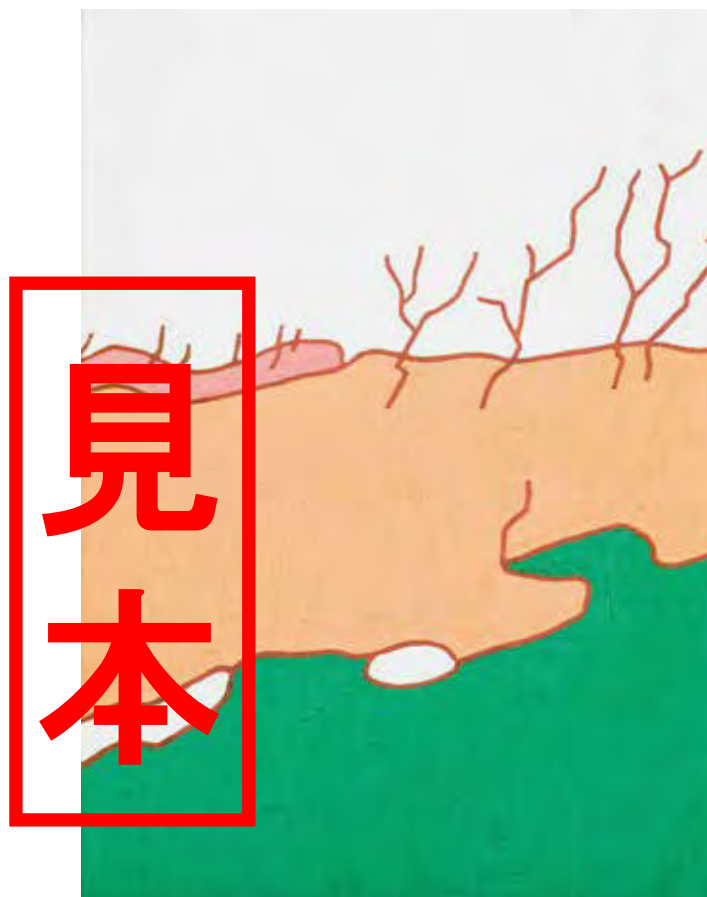
10年分の誕生祝として房枝に贈った作品

13《 童女 》 1970 年 油彩・板

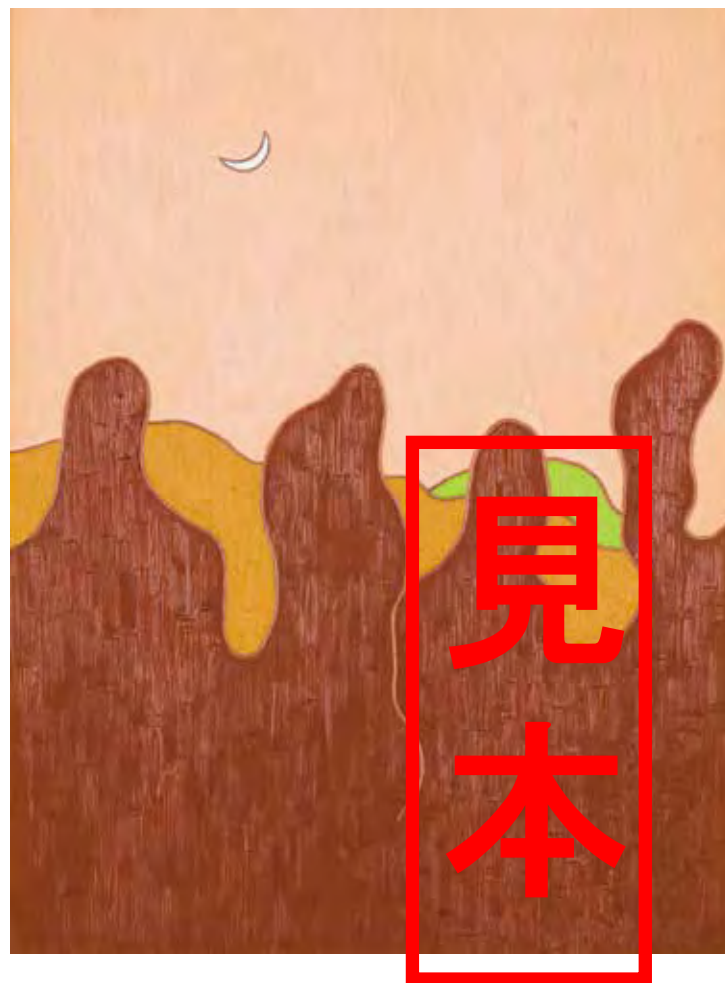
4. 御殿場時代 -静岡-



14《 鷗 》 1971 年 油彩・板

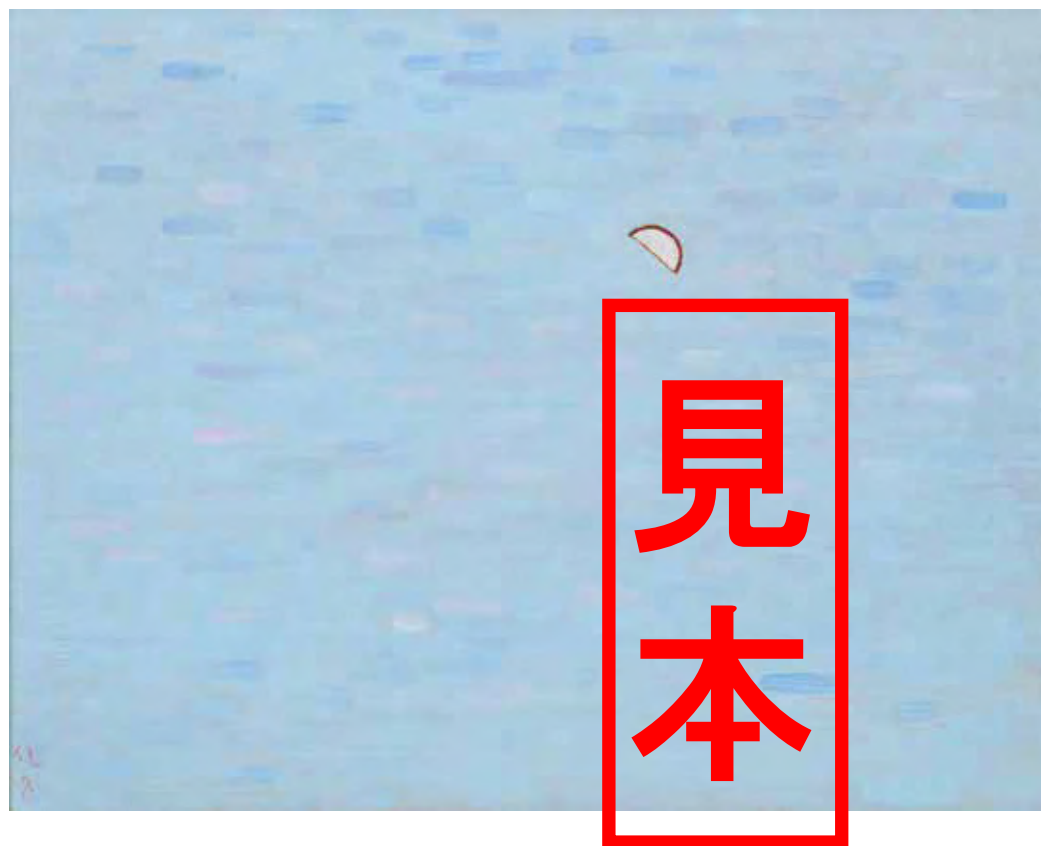


15《 ゆきしろ 》 1971 年 油彩・板

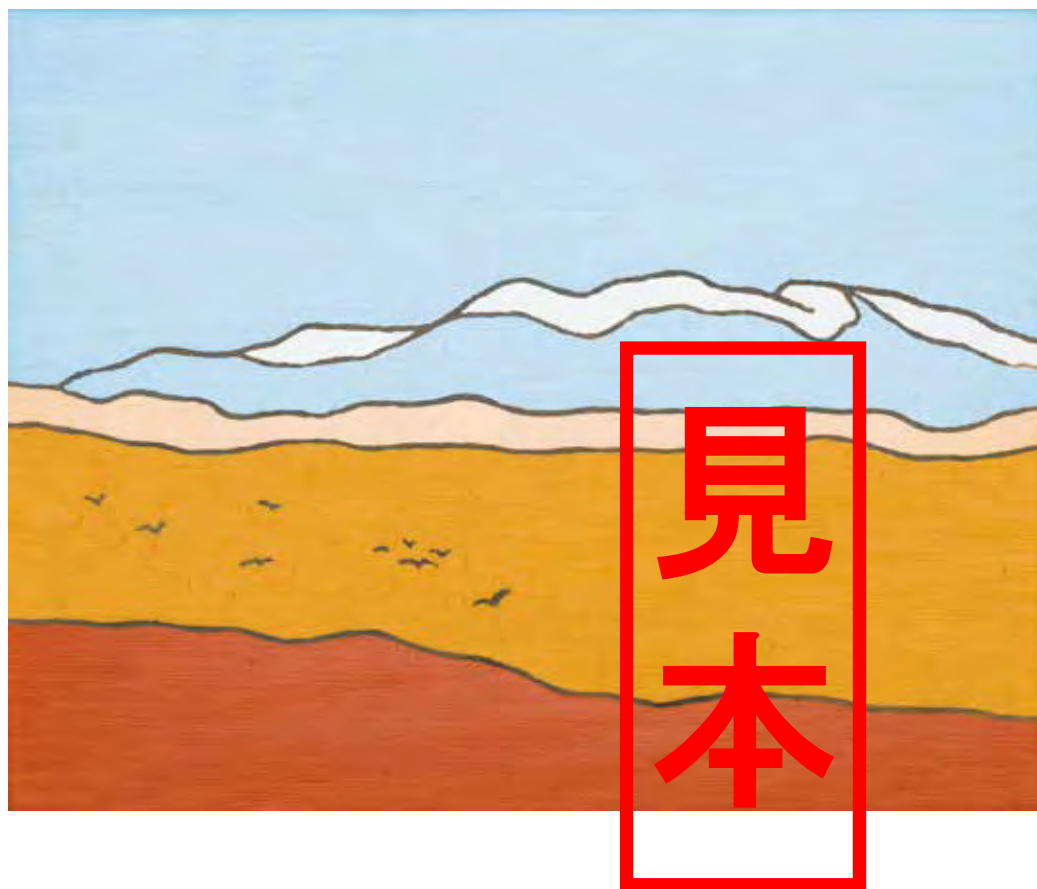


16 《月と森》 1971年 油彩・板

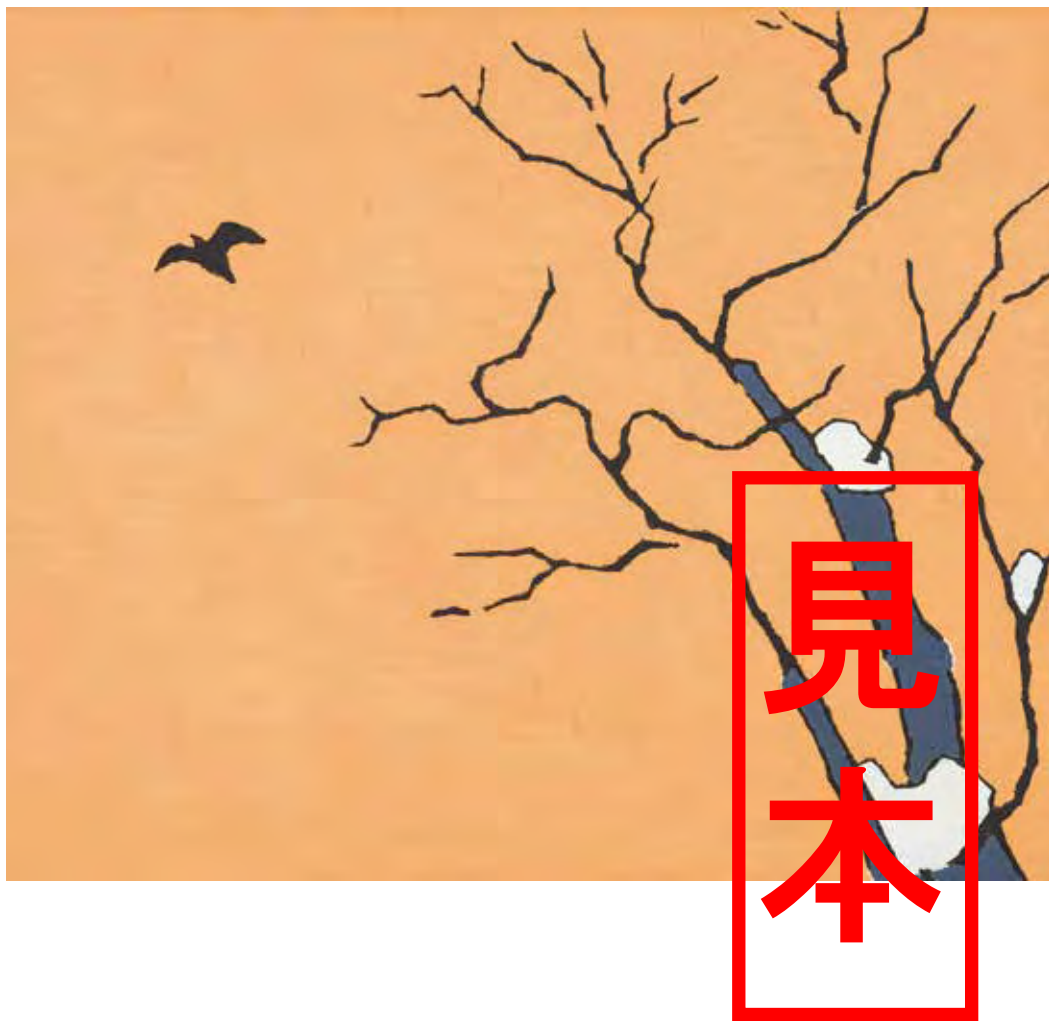
5. 那須時代 - 栃木 -
(1) 前期 - 右手の時代 -



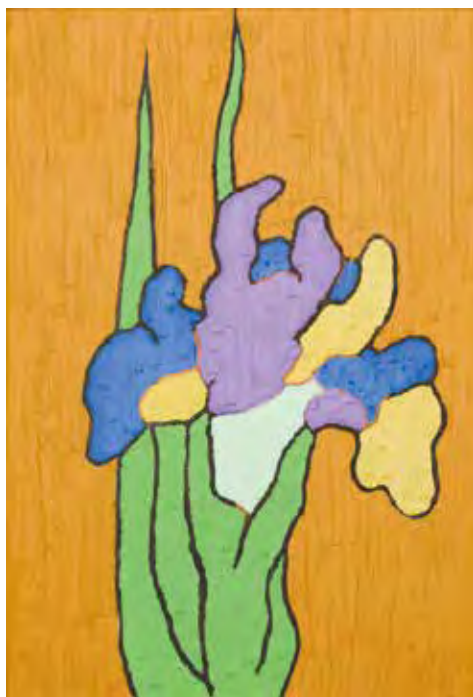
17《残月》 1973年 油彩・板



18《那須野》1975年 油彩・板



19《晩冬》 1975年 油彩・カンヴァス



20《菖蒲》 1974年 油彩·板



21《海》 1972年 油彩·板



見本

22《ヨギ・フィン》 1976年 油彩・板

ー日記よりー

熊谷先生宅に伺う。

《青空の下で》を「色のあるところとないところをうまく
やったもんだねえ。しっかりした良い絵です。」と褒めて
くださる。

昭和51年(1976) 8月29日



25 《青空の下で》 1976年 油彩・板



24《燕子花》1976年 油彩・カンヴァス



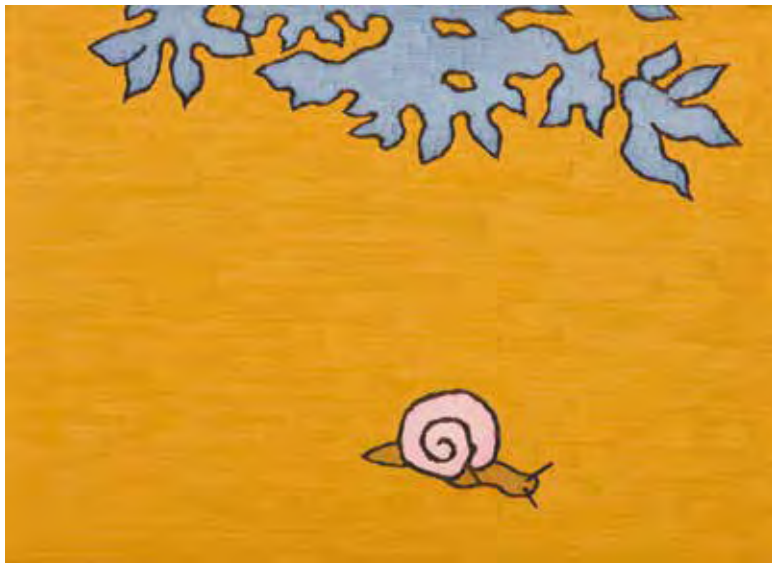
見本

25 《木鼠に秋》 1976年 油彩・板



26 《セッター種の犬》 1976年 油彩・板

見本

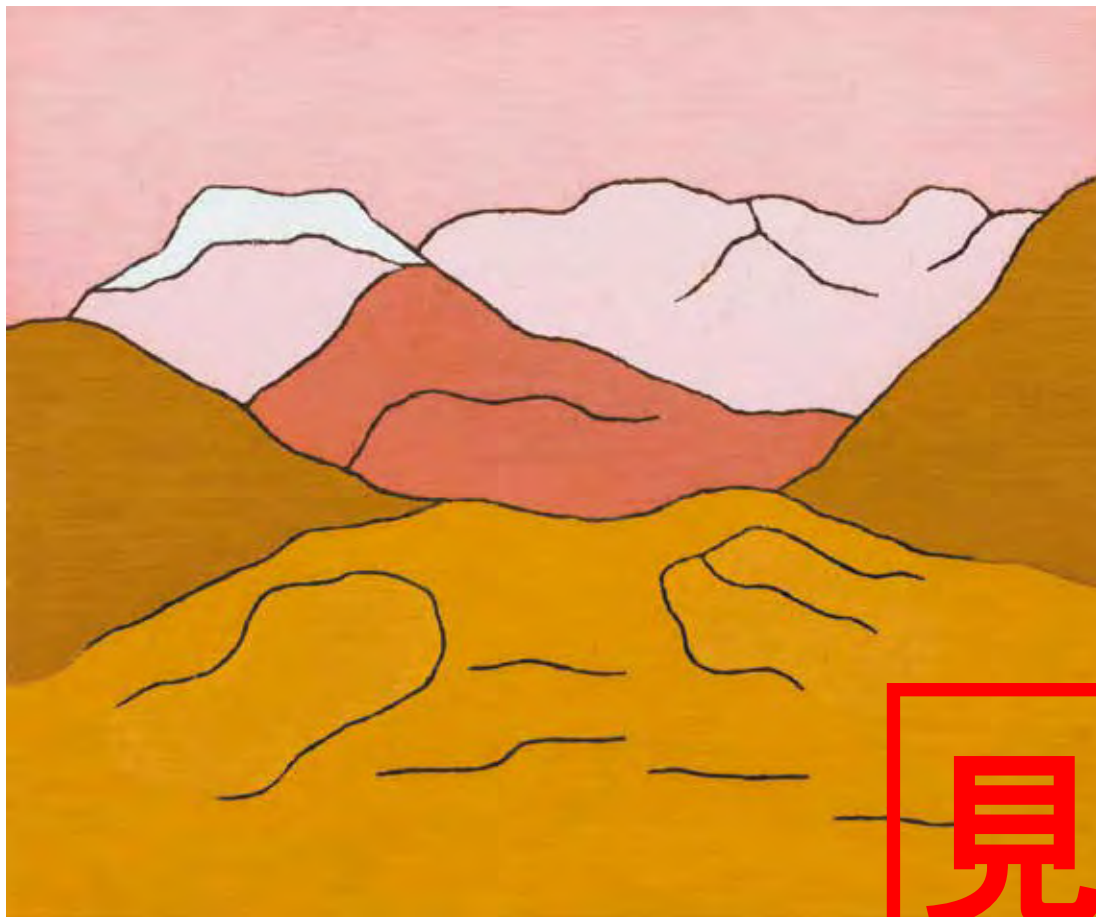


27《雨の日》 1975年 油彩・板



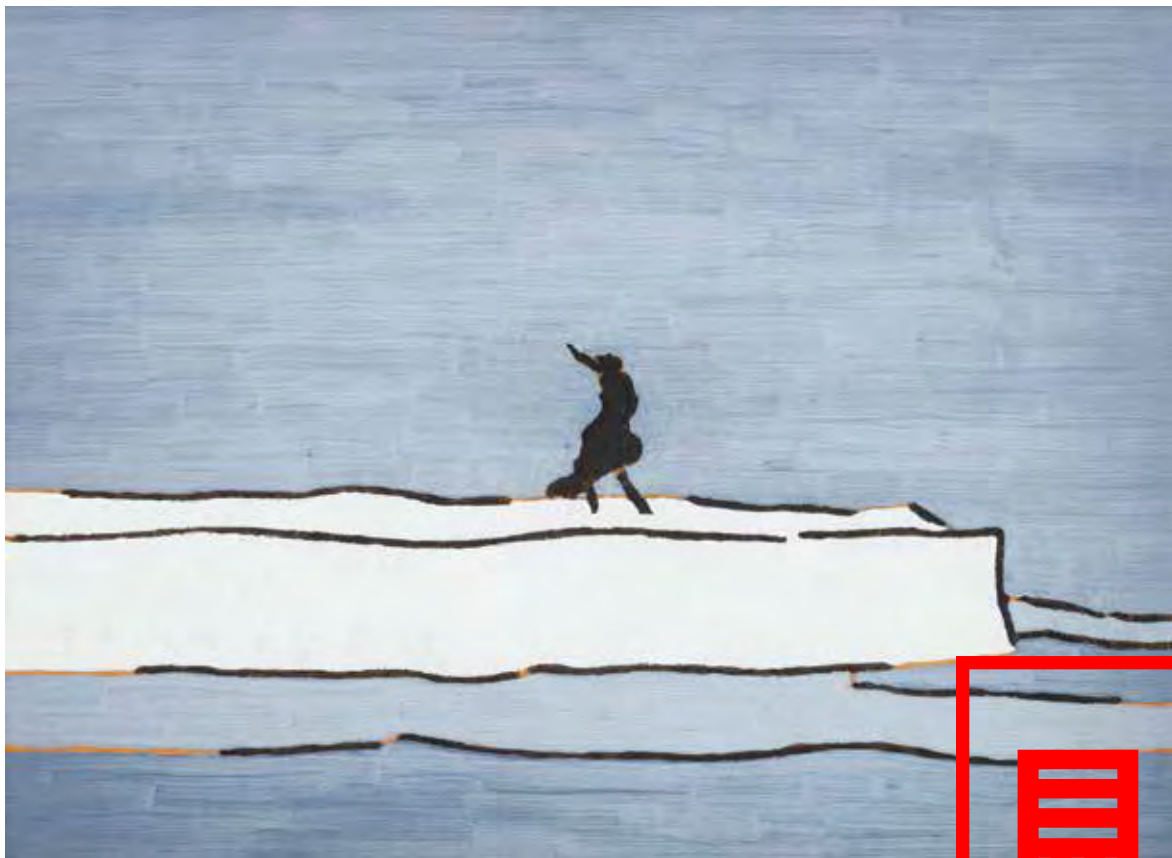
28《雨の日》 1975年 油彩・板

見本



29《奥山》 1975年 油彩・板

見本



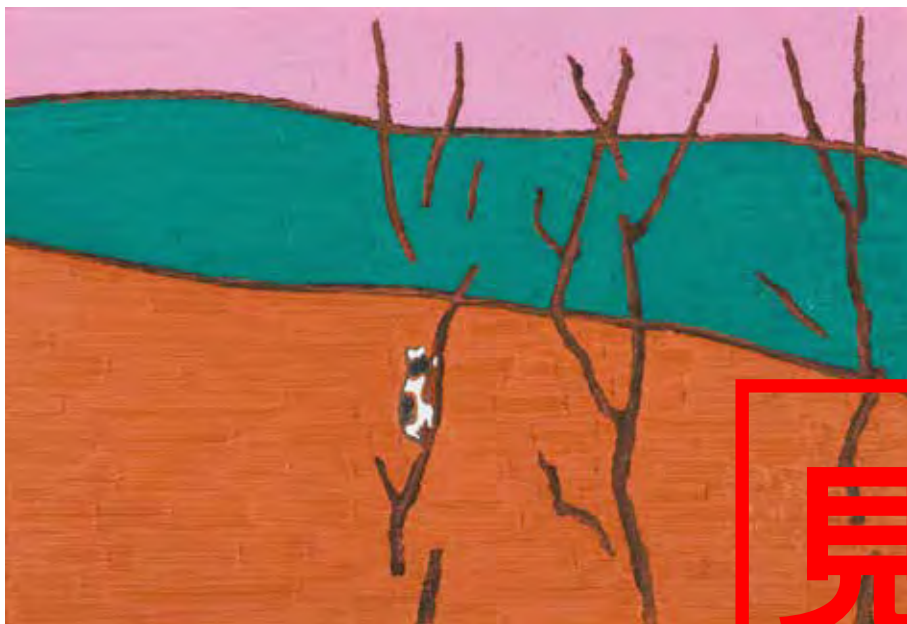
30《突堤》 1975年 油彩·板

見本



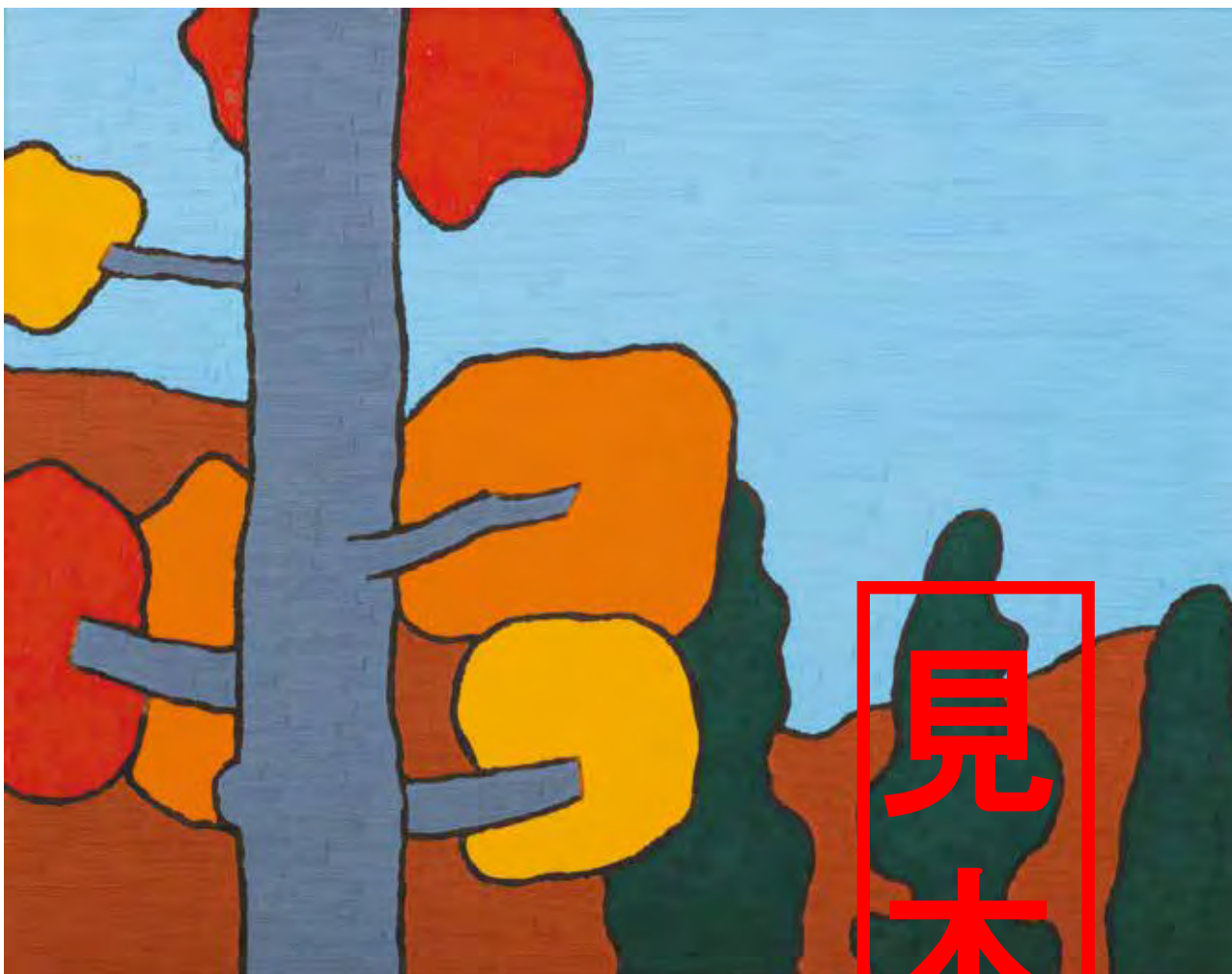
見本

31 《富士山に見える道》 1973 年 油彩 板



32 《林の猫》 1973年 油彩・板

見本



33《丘の上から》 1975年 油彩・板

(2) 後期 -左手の時代-

左手に筆を持ち替える。



34《仔犬》 1979年 鉛筆・紙



35《さだゆきちゃん地藏菩薩》
1979年 水彩・紙



36《人物》 1977年 フェルトペン・紙



見本

37《林とうし》 1978年 油彩・板



38《月のペンダント》 1979年 油彩・板

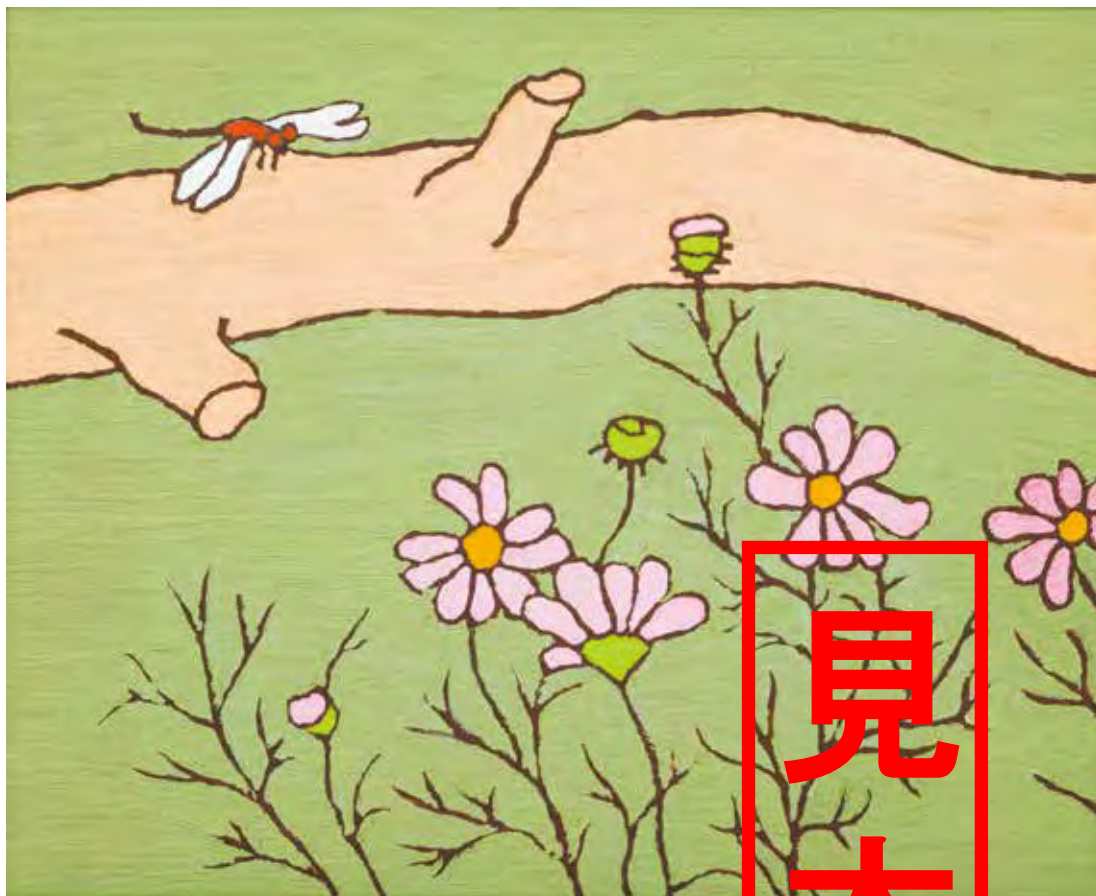


見本



39《窓辺におみなえし》 1979年 油彩・板

40《つるりんどう》 1979年 油彩・板



41 《秋桜》 1980年 油彩・板

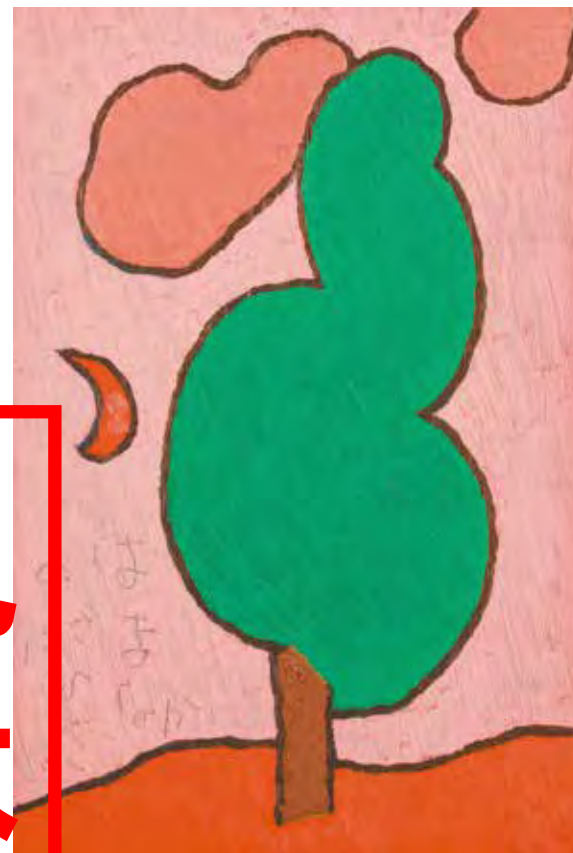
見本



42 《かぶとむし》 1979年 油彩・板



43《人形とハンカチ》 1978年 油彩・板



44《赤い月》 1979年 油彩・板

見本

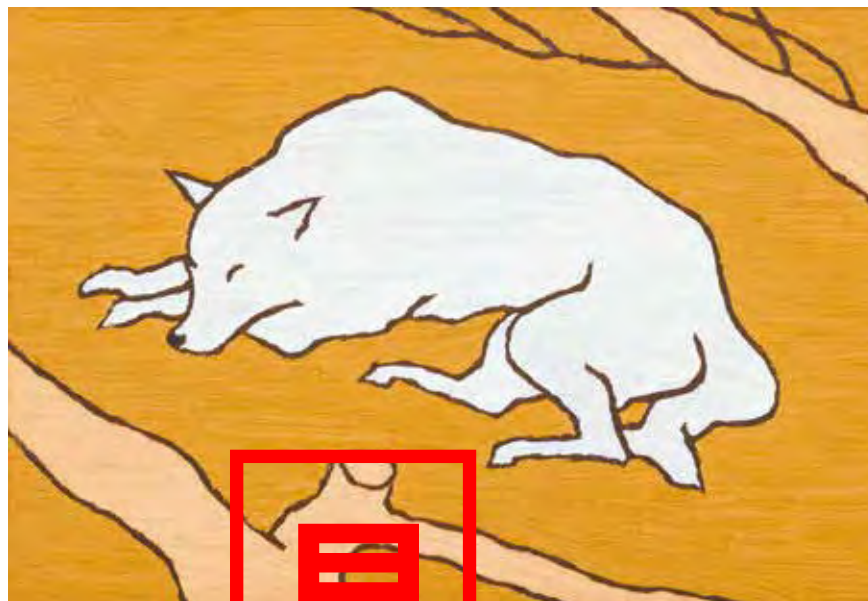


45《天窓》1980年 油彩・板

見本



46《月夜》1980年 油彩・板



見
本

47《アイヌ》1940年 油彩・板



見
本

4 《無名氏》 1900年 油彩線・板



19《山楂》1980年 油彩・板

6. 掲載作品一覧

作品No	作品名	制作年	サイズ	縦×横(cm)	材 質	作家年令
1	冬の日	昭和37年(1962)	30F	91×73	油彩・カンヴァス	20
2	# 3	昭和41年(1966)	4F	34×24	油彩・カンヴァス	24
3	作品6 5/11	昭和41年(1966)	6F	41×32	油彩・カンヴァス	24
4	エチュード 狐	昭和42年(1967)	6F	32×41	油彩・カンヴァス	25
5	エチュード	不明	3F	22×28	油彩・カンヴァス	—
6	房枝の肖像	昭和43年(1968)	0F	18×14	油彩・カンヴァス	26
7	無題	昭和43年(1968)	SM	16×23	油彩・カンヴァス	25
8	無題	昭和43年(1968)	3F	22×28	油彩・カンヴァス	25
9	山道	昭和44年(1969)	6F	41×32	油彩・板	27
10	月	昭和45年(1970)	4F	34×24	油彩・板	28
11	蜜柑	昭和45年(1970)	SM	16×23	油彩・板	28
12	あかつめ草	昭和44年(1969)	SM	16×23	油彩・板	27
13	童女	昭和45年(1970)	4F	34×24	油彩・板	28
14	鶺鴒	昭和46年(1971)	4F	34×24	油彩・板	29
15	ゆきしろ	昭和46年(1971)	4F	34×24	油彩・板	29
16	月と森	昭和46年(1971)	6F	41×32	油彩・板	29
17	残月	昭和48年(1973)	6F	32×41	油彩・板	31
18	那須野	昭和50年(1975)	6F	32×41	油彩・板	33
19	晩冬	昭和50年(1975)	20F	73×60	油彩・カンヴァス	33
20	菖蒲	昭和49年(1974)	4F	34×24	油彩・板	32
21	海	昭和47年(1972)	4F	24×34	油彩・板	30
22	ヨギ・フィン	昭和51年(1976)	4F	34×24	油彩・板	34
23	青空の下で	昭和51年(1976)	6F	41×32	油彩・板	34
24	燕子花	昭和51年(1976)	20M	50×73	油彩・カンヴァス	34
25	木鼠に秋	昭和51年(1976)	8F	46×38	油彩・板	34
26	セッター種の犬	昭和51年(1976)	6F	41×32	油彩・板	34

作品No	作品名	制作年	サイズ	縦×横(cm)	材 質	作家年令
27	雨の日	昭和50年(1975)	4F	24×34	油彩・板	33
28	雨	昭和46年(1971)	4F	34×24	油彩・板	29
29	奥山	昭和50年(1975)	8F	38×46	油彩・板	33
30	突堤	昭和50年(1975)	—	24×34	油彩・板	33
31	富士山の見える道	昭和48年(1973)	4F	34×24	油彩・板	31
32	林の猫	昭和48年(1973)	SM	16×23	油彩・板	31
33	丘の上から	昭和50年(1975)	6F	32×41	油彩・板	33
34	仔犬	昭和54年(1979)	—	17×24	鉛筆・紙	37
35	さだゆきちゃん地藏菩薩	昭和54年(1979)	—	16×11	水彩・紙	37
36	F 像	昭和52年(1977)	—	35×25	フェルトペン・紙	35
37	林とうるし	昭和53年(1978)	SM	23×16	油彩・板	36
38	月のペンダント	昭和54年(1979)	変形0	16×11	油彩・板	37
39	窓辺におみなえし	昭和54年(1979)	SM	23×16	油彩・板	37
40	つるりんどう	昭和54年(1979)	変形0	ハガキ	油彩・板	37
41	秋桜	昭和55年(1980)	3F	22×27	油彩・板	38
42	かぶとむし	昭和54年(1979)	SM	23×16	油彩・板	37
43	人形とハンカチ	昭和53年(1978)	変形0	16×11	油彩・板	36
44	赤い月	昭和54年(1979)	変形0	ハガキ	油彩・板	37
45	天窓	昭和55年(1980)	SM	23×16	油彩・板	38
46	月夜	昭和55年(1980)	SM	16×23	油彩・板	38
47	アイヌ犬	昭和55年(1980)	SM	16×23	油彩・板	38
48	観音さま	昭和55年(1980)	SM	23×16	油彩線・板	38
49	山椿	昭和55年(1980)	SM	16×23	油彩・板	38
表紙	鯛をする自画像	昭和49年(1974)	6F	32×41	油彩・板	32
裏表紙	狩人	昭和53年(1978)	—	12×16	フェルトペン・紙	36

※作品No.25は那須塩原市教育委員会所蔵で、それ以外はすべて個人蔵



【印刷情報】

材 質：(表紙) マットコート93.5kg(菊判)
 マット PP 加工
 (本紙) テイクGA-FS76.5kg(菊判)
 フォント：(本文) UD 新丸ゴ Pro
 (キャプション) UD 新丸ゴ Pro
 (ノンブル) Times New Roman

展覧会記念行事 ギャラリートーク

【開催日】 令和2年5月17日(日) 13:30～15:00
 【演 題】 「はまなかのぶひさ -人と画業-」
 【講 師】 濱中 房枝 氏 (NPO法人 桜和-OWA 理事長)
 【場 所】 歴史文化博物館 企画展示室
 【参加費】 無料 (要入館券)
 【定 員】 50 名

はまなかのぶひさ絵画作品集 — 理智と童心と — the way you were

発 行 日 令和2年(2020)4月
 編集・発行 愛荘町立歴史文化博物館
 ☎529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878
 電話 0749 (37) 4500
 印 刷 株式会社デジ・プリント滋賀
 ©2020 愛荘町立歴史文化博物館



愛莊町立歴史文化博物館
Aisho-cho Historical Museum